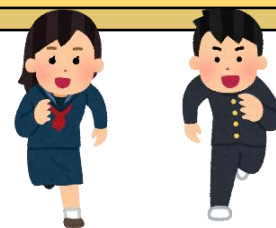


## 止まり木



## さあ！382人のスタートの時



本日、令和8年度、1学期の始業式を実施いたしました。3日に入学式を終えたばかりの新入生と新2・3年生、計328名のスタートとなりました。初めに新転任の教職員の紹介を行いました。今年はたくさんの異動があり、新しい出会いがたくさんありました。今日の始業式でお話しした内容を以下に紹介します。

## 1 学期始業式

おはようございます。今日は新年度の始まりにあたり、何点かお話をしたいと思います。

新入生の入学をはじめ、この後紹介しますが多くの先生方に野田中学校に来ていただきました。新しいたくさんの出会いができました。逆に昨年度までお世話になった先生方との別れもありました。さみしい思いをしている人もいるかもしれません。しかし、皆さんはこれからこのような出会いと別れを繰り返すこととなります。どうかこのような人との縁やつながりを大切にしてください。このことがきっとみなさんを成長させてくれるきっかけになると思います。

もう一つは、3月の修了式、先日の入学式で確認し合った今年のテーマについてです。繰り返しのようになりますが、今年は、みんなで「人を認める文化」を築いていきたいと思っています。人のダメなところを探すのではなく、頑張っているところを探し、素直に認める文化です。では、認められるためにはどうしたらいいのでしょうか？認められるということは、何か特別なことをしたり、大活躍しないといけないのでしょうか。例えば、野球で投手としてノーヒットピッチング、打者として4打席連続ホームラン。これらはとてつもない大活躍です。だからこの人たちが認められるのでしょうか？試合に出れなくてもベンチでだれよりも大きな声で応援している人、道具を準備したり、片づけたりしている人は認められないのでしょうか。そんなことはないですよ。誰かのために、何かに打ち込んでいる人は、人の役に立っているのです。この役に立つということは本当に素晴らしいことです。自分が誰かや何かの役に立てたらうれしいし、幸せな気分になります。しかし、役に立つかどうかにこだわりすぎると、役に立たない自分や相手を許せなくなって生きづらくなってしまいます。役に立つときもあれば、役に立たない時もあります。だから、役に立つとは、大活躍をすることや大勢の人に認められることだけを指すのではないのです。

先日、電車の中でベビーカーに乗った赤ちゃんがにっこり笑いました。すると、その周りに乗り合わせていた数人が、みんな笑顔になり、温かい雰囲気になりました。赤ちゃんは笑顔をふりまくことでその場を明るくするのに役立ったのです。もちろん無意識です。このように役に立つということは誰にでもできるということです。そして、そんな小さな行動を認め合うことが「人を認める文化」ということです。みんなのちょっとした言動が、誰かをちょっと幸せにできるように頑張っていきましょう。

## 《保護者の皆さま》

新年度が始まりました。今年度もご協力、ご支援の程、どうぞよろしくお願いいたします。